



・西南学院大学・

図書館報

№. 9 7

昭和58年（1983年）11月1日発行

〒 814

福岡市早良区西新6丁目2番92号

西南学院大学図書館

その頃のこと ―学徒出陣40周年―

図書館長 後 藤 泰 二

事は旧聞に属するが、昭和18年10月、学生の徴兵猶予が停止され、徴兵年齢に達していた文科系の学生は、その年の12月、教室から一斉に入隊していった。今から丁度40年前、太平洋戦争の敗色ようやく濃くなった頃である。

当時、高校の2年生であった私のクラスでは、40人のうち7人が入隊していった。となりのクラスは16人であった。みんな、入隊の10日前まで教室に来て、いつもと同様、哲学や歴史の授業を受けていた。刹那的な自棄的な気配は見られず、教室にはむしろ緊張感があった。

まもなく徴兵年齢が19才に引き下げられ、クラスの大半が適齢となると、次々に徴兵検査を受け、次々に召集令状がきて、クラスの人数は減る一方であった。教室は空席がめだち、英語やドイツ語の当る順番が早くなり、予習が悲壮であった。卒業はすでに半年くりあげられていたが、クラスの人数も半分に減っていた。

大学に入ってから事情は同じであった。ある朝、下宿の窓の下で私を呼ぶ声がした。顔を出してみると友人が立っている。「とうとう来たよ。今から帰る。元気でナ。」召集令状が来たので、入隊のため郷里に帰るといのである。こういう会話は、教室でも食堂でも芝生でも、しばしば耳にした。こうして1年生は、5人、10人と減っていった。2年生、3年生はすでにほとんどいなかった。昭和19年秋のことである。

私は何度か図書館にいった。入隊前に大学のなかを、あちこち見ておこうという気持からである。閲覧室はもちろん人影まばらであったが、いつも同じ席に座って本を読んでいる何人かの人を見かけた。室内は静寂そのものであった。

11月、東京は空襲が始まった。その頃、いつもリュックをかついで図書館にやってくる人がいた。角ばったリュックの外見と、重そうな歩き方から、中身が本であることはすぐ分った。その人は来る時も帰る時もそれをついでいた。私はいちどその人と話をしたことがある。自宅に置いていると空襲でやられるかもしれないから、ということであった。この本がやられる時は自分も一緒だといのである。私には何か遠い世界のこのように思われた。助手か研究生の人であった。

昭和20年、空襲が激しくなると図書の疎開が行われた。経済学部所蔵のアダム・スミス文庫など貴重な図書を梱包し、汽車で信州や甲府に運び、駅からは疎開先の山寺などにリヤカーその他で搬入するという作業である。若い先生方と、未だ入隊していない学生たちがこの作業に従事した。のちの東大総長大河内一男先生は、信州に向かう満員の夜行列車の中で、通路に新聞紙を敷いて坐り込み、同行した私の友人に、「宇都宮君、大学の先生なんかになるものじゃないよ」と、慨嘆これを久しうされたという。今なお、友人間の語り草である。

商学部教授（企業形態論・保険論）

卒業論文の作成について

商学部助教授 大矢 繁 夫

卒業論文は、学生諸君が取り組む初めての本格的な「学術論文」といえる。その作成には、何よりも、一定の期間継続して研究に集中する情熱が必要とされる。ところで、卒論に取り組むにあたっては、いくつかの要点がある。ただやみくもに頑張ればよいというものでもない。さしあたって研究作業の手順を(1)テーマの設定、(2)文献・資料の収集と消化、(3)論文の構成と論述に分けて要点をあげてみよう。

(1)テーマは、もちろん自分にとって関心のあるものを選ぶべきである。自分の関心が漠としていて定まらないなら、教師に相談するとよい。テーマ設定にあたって大事なものは、テーマを狭く限定するということである。広く大きな問題を研究してはいけない、というのではない。ただ、例えば「社会科学とは何か」というような大きな問題を直接にテーマにすると、原稿用紙50枚(400字詰)程度では論じつくせないし、どうしても考察が浅くなってしまうおそれがあるからである。もちろん、「狭いテーマ」の研究の、その背後にある問題意識は大きくてかまわない。つまり、「問題意識は大きくても、テーマは狭く」ということである。

(2)図書館の分類目録で自分のテーマと関連のありそうな文献を探し出して読む。1冊の書物から他の文献の存在がわかるし、そうして次々とあつ

ていくとよい。分類目録には載っていない雑誌論文の探索には、経済資料協議会『経済学文献季報』(図書館所蔵)が便利である(商学・経営学・経済学の場合)。文献・資料の収集には、それなりの労苦が伴う。また、集めた文献・資料がテーマに役立つかどうかは、実際に読んでみなければわからないことが多い。このことも含めて、労苦を厭わないという姿勢がここでは大事である。

(3)まず、大雑把な論述プランを立て、それにそってさらに文献・資料を読み、ノート・メモを取りながら展開の筋道について検討を進めていく。そうするうちに論文の構成が固まり、章・節・項の細部の配置も見えてくる。論述で重要なことは、何を問題とし、どのような分析をしていかなる結論に達するのかを明確にする、ということである。研究成果をできる限り正確に読み手に伝える、ということが大事なのである。

以上、研究作業の手順を(1)(2)(3)に分けてその要点をあげてみたが、実際の論文作成過程は、この順序でスムーズに進むものではない。行きつ戻りつの試行錯誤の繰り返しであり、(1)(2)(3)の過程が同時進行的でさえある。それだけに継続的に集中する努力が必要とされるのである。卒論の取り組みの始めに、あらかじめ相応の覚悟をしておいた方がよいであろう。完成した時の喜びは、これから先、そう何度も味わえるものではないのだから。

(証券論)

特集 卒業論文の書き方

図書館より — 論文を書くための参考文献 —

卒論を含めて、論文と言われるものが他の文章と異なる特色に、地の文(自分の文書)の中に他の人の著作の一部が引用されるのは必須である。それはどんな新しい発見、創作、新説であっても先人の業績の上に成り立っているからである、と言われていきます。新説を展開する過程において、先人の説を述べて、違いを証明する必要があります。そのためには、引用文を入れて、その出典を明示したり、注を付けたりする必要があります。他の人の文章をそのまま出典も明示せずに使用すれば、盗作にあたります。

これは、論文と名のつく文章を書くうえでの、きまりのほんの一例にしかすぎません。ここでは紙数の関係上これらの注の付け方と、引用の方法についてのみ説明いたしますが、図書館には下記のような論文を書く上で

参考となる図書が備っています。これらも参考にして4年間の学生生活の総力を結集して書いて下さい。論文を書くうえでの一応の約束事を承知のうえで書くことは、論文の中味と同様重要であり、審査にあたる指導教授を喜ばせるのは請け合いです。

(1) 引用の方法

文章の中で他人の著作の一部を引用する場合、自分の文章と区別するために用いる方法です。引用の仕方には、二種類あります。

① 引用文が一、二行の短文ならば、「」でつつんで地の文に入れる。

② 数行にわたったり、あるいは半ページないし数ページに及ぶ場合は、地の文よりも2コマ下げて、3マス目より書き出し、頭を全部揃える。ノ

卒論と図書館

経済学部講師 井坂文夫

卒論の書き方について原稿をとということで気軽に引き受けたものの、どうも私は適役ではなかったようだ。というのも、私自身、研究論文のテーマを決めるだけで四苦八苦、原稿用紙一枚埋めるのに反古が机の上に山となり、できあがったものは慙愧に堪えないので二度と読み返す気にならないというあり様だからだ。論文を書くという行為は、小説を書くとか絵を画くとかいうのと同じ行為なのだと思う。論文が思うように進まないとき、真面目な諸君はきっと太宰治の心境をよく理解するに違いない。以下、卒論を書く上での若干の生活の知恵を紹介するが、最も重要なのは1人1人の創作意欲であり、修行を途中で投げ出さない根気である。

論文のテーマは具体的に絞られている方がよいが、初めは漠然とこういう分野を勉強してみたいというだけでもよいだろう。とにかく当たりをつけるために助走を開始してみよう。図書館には検索カードの他、レファレンス・ブックがあるので、テーマに最も関連が深いキーワードを2つ3つ考えておき、このキーワードを表題に含む書籍や論文のリストを作る。情報社会の世の中、一日作業をするだけで百や二百のリストは簡単にできてしまうが、これを読み切るのは不可能に近い。リストはとりえず10以下に抑えるのが賢明だろう。リストを作る際に、最も新しい文献から順に、自分が興

味を覚えるタイトルで、有名な学者が書いたものや、有名な学術雑誌に載ったものを選び出しておく。これらの文献をながめてみて、割合やさしく読みやすそうなものから読んでみる。参考文献はただ読めばよいというものではない。自分が論文を書くとき、その文献をどのように生かせるか考えながら、あくまで論文を書くという目的のために読むことが重要である。後で同じ論文を読み返す時、役に立つように、アンダーラインを引いたり(コピーの場合に限る)、内容の要約を作ったりしておくといよ。

文献を読み終えたら、もう一度テーマやキーワードを考え直し、文献リストを作るところから同様の過程を繰り返す。学術論文には末尾に著者の参考文献があげてあるから、これも参考になろう。一般に、テーマはあまり大きく変えない方がよいだろう。修行には根気が必要なのだ。

ある程度問題が具体的にになってきたら、蓄積された材料を使って自分自身の考えを展開してみよう。実はこれが卒論作成上最も重要な過程なのだ。いい卒論は常に自分自身の論理構成が前面に出てきているものである。日頃から自分で考えるクセをつけておくことが重要であろう。

(国民所得論)

特集 卒業論文の書き方

引用する場合の注意点としては、

① 引用文の中の「」は『』にする。

② 引用文そのものについては、それは正確に原文どおりでなければならない。誤植とはっきり判断できてもそのまま書き、誤植の部々の上(縦書きでは右)に小さく「ママ」と注記しておく。これは原文そのママという意味である。

③ 引用の孫引きは、つつしまなければなりません。孫引きとは、ある人の論文に引用してあった文章を元の文章を確かめずそのまま引用することです。前の人の写し間違いをそのまま書いてしまう恐れがあります。

引用文には、必ず注番号を付けます。

(2) 注のつけ方

注は引用文の出所を明記するためにつける他に、本文の補足説明にもつける。つまり、論文の主題から外れるけれども書いていた方がよいと思われる説明や、他人の

論証をもとにして記述した部々の典拠の指示を、注として本文から取り出す。

(論文を書くための参考文献)

名古屋学院大学附属図書館『卒論ガイド』1981

木村時夫『実例レポート・論文の書き方』南風堂、1979

【816/5/6】

宮内克男『レポート・論文のまとめ方と書き方』川島書店、1978 【816/5/2Aより1】

斉藤孝『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部、1978 【816/5/4】

杉原四郎他『研究レポートのすすめ』有斐閣、1979

【816/5/7】

佐藤孝一『博士・修士・卒業論文の書き方』同文館、1980 【816/5/3AよりG】

(情報サービス課長 今永義純)

一冊の本

—印象に残ったこの一冊—

加藤 諦三

「大学で何を学ぶか」
—自分を発見するキャンパスライフ—

光文社 昭和54年

本館所蔵(分類番号377・0・95巻)

谷崎 潤一郎

「細雪」

中央公論社 昭和43年

本館所蔵(分類番号918・6 T10・1-15)

「西南スピリットとは何か」これが入学以来の私のテーマである。これは加藤氏の指摘にもあるように、生活、人間、講義等すべてから学ぶ。

だが、西南スピリットを理解するためには、どうしてもキリスト教学、即ち神についての問いに自分なりの考えをもつ必要がある。極端な例としてニーチェみたいな人間もいていいはずだ。

また、神についての概念は、愛についての概念ともいえる。一般に今日の発展がエロスの愛に支えられていることは否定し難いが、世の中がエロスの愛のみだと殺伐としたものになってしまう。そこで、もう一つのアガペーという愛を教えてくれるのはキリスト教であると思う。つまり、この2つの愛の調和こそ、今日の社会問題の解決の大切な条件ではないだろうか。

そこで、大学時代と読書について、加藤氏は「この時期に読まなければ、青春の日が泣くと思う」と言っている。その意味では泣いているのかも。

今回の内容は、毎回の図書館報で「一冊の本」として掲載されているものに比べ乏しいかもしれないが、こういう機会を頂けたことに感謝する一方、是非後輩諸君に、4月の大学広報での村上学長の「修学と生活と愛という大学共同体としての三つの特色を最善の意味において発揮し、実現してゆくことを願っている」という言葉を思い出してほしいと同時に、共に「西南スピリットとは何か」という題目の書物の研究に努めていこうではありませんか。

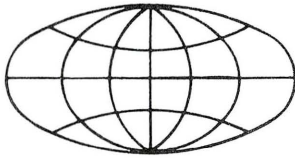
経済学部 3年 立石和久

私にとって心に残った一冊の本といっても、今は、特にこれといったものがないので申し訳ないのですけれども、しいてあげれば、谷崎潤一郎の「細雪」かもしれません。

私が「細雪」に感銘を受けたのは、おかしな話だと思われるかもしれませんが、この作が私たちをとり巻く、現代の社会状況・社会問題・個人の問題と何の関連も私に感じさせない文学作品だったからなのです。この様に簡単に言ってしまうと誤解を招くことになりかねないので、もう少し説明を加えるならば、私は、「細雪」の文学性に感銘を受けたのです。この作品に対して単なる耽美主義にすぎないと批判する人がいるかもしれませんが。そして確かにそうなのかもしれません。しかし、私は、私達の実生活の中では、きっと見いだすことのできない、経験しえない美しい世界をこの作品の中にかいまみることができたと感じたのでありまして、谷崎潤一郎の文章の美しさに感銘を受けたのです。

「細雪」は、そういった意味で、実生活に直接に役立つ、あるいは、読む者にとって何らかの人生の指針となるものではないかもしれませんが。うまく表現することができないのですけれども、私は、そういった美しい文学作品を読むことは、決して、自分にとって無駄なこととは思えないのです。「細雪」には、フィクションとしての文学作品のすばらしさがあるのだと思います。そしてそれを、私達が、そういったものとして楽しむことは、一つの意義を持つのではないのでしょうか。

法学部 3年 櫻井由紀子



外国図書館シリーズ

— メキシコ —

エル・コレヒオ・デ・メヒコ大学

El Colegio de México

Camino al Ajusco 20

México, D.F. 01000

経済学部教授 吾郷健二

エル・コレヒオ・デ・メヒコ（メキシコ大学院大学）は、海拔2,240メートルの高地にある（ただし、緯度は北緯20度の亜熱帯の）メキシコ市の南のはずれ、アフスコ山の麓にある。晴れた空気のきれいな日には、放課後ビールも飲めるサラ・デ・プロフェソーレス（さしずめ、学研付置談話室に相当しようか）から遠く、ポポカテペトルとイスタクシワトル（いずれも5,000メートルを越す）両火山の雄姿を眺めることができるのだが、大気汚染のひどいメキシコ市の現状では、そんな日は、一年に数日とない。近くには、メキシコ中央高原最古の文明といわれる、円形ピラミッドで有名なクイクルコの遺跡があるが、これはアフスコ火山の大爆発で一夜にして埋もれてしまった。私は、私の滞在中にアフスコ山が爆発しないか、と心配だったが、メキシコ人教授たちは平気な様子だった。

さて、エル・コレヒオは、1940年にスペインからの亡命知識人を中心にして設立された準国立の大学院大学である。学部を持たないため、院生の数よりも先生（教授・研究者）の数（約百数十名）の方が多いというミニ大学である（したがって、例えばグラウンドや体育館やサークル活動に寮などといった設備がなく、もっぱら研究のみの感がある）。

社会科学と人文科学の領域では、メキシコのみならずラテンアメリカ全体を見回しても最高峰に位置する研究・教育機関として、そのハイ・レベ

ルの研究・出版活動がよく知られているため、全世界からやってくる研究者で、いつも国際色豊かな雰囲気がただよっている。

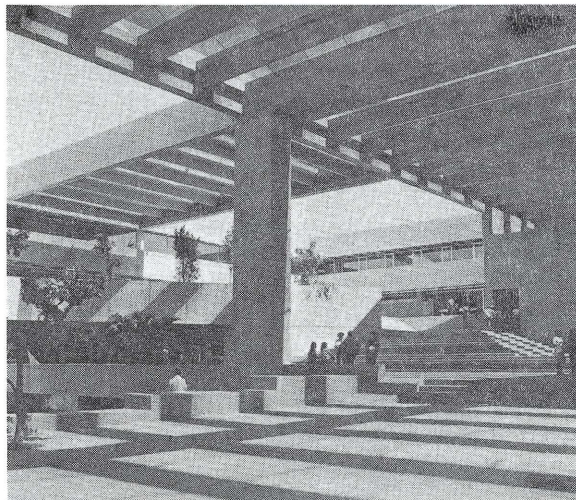
図書館は、規模としては大きくないが（現在蔵書数20万冊）、その特色として、①ラテンアメリカ研究ではさすがに抜きん出ており、国の内外を問わず、外部からの利用も多い。レファレンス部門にアメリカ議会図書館や世界最大を誇るテキサス大学ラテンアメリカコレクションなどのカタログを備え、アメリカの諸大学に提出されたラテン

アメリカに関する学位論文のマイクロフィルムを所蔵し、OAS（米州機構）やCEMLA（ラテンアメリカ金融センター）の寄託図書館にもなっている。②アジア・アフリカ研究にもかなり力をさいており、約1万2千冊の東洋各国語文献がある（日本研究科があるため、日本語文献もかなりある）。③イバン・イリイチの主

宰していたクエルナバカのCIDOC（異文化間資料センター）の閉鎖時にその蔵書をすべて引きついで、ことなどがあげられる。

しかし、率直に言って、設備やシステムや利用者サービスといった点で、例えばアメリカのトップクラスの大学図書館と比較するなら、やや劣る印象は否めないが、メキシコが第三世界に属するラテンアメリカの国であることを考慮すれば、やむを得ないといわなければなるまい。

（国際経済論・低開発国経済論）



各種研修会参加レポート

「司書講習」に参加して

杉 野 哲 谷

今回私は、別府大学へ司書講習に行かせて頂いた訳ですが、機会を与えられましたのでその成果と感想を若干書いてみたいと思います。

まず別府という場所ですがそこは皆様もご存知の通り、大分県にある世界有数の温泉地です。しかしあまりケバケバしくない人間味溢れた情緒豊かな所であります。特に鉄輪はそんな感じが強い所です。そんな中にある別府大学は、講習を受けるに相応しい環境を持った大学といえます。

さてそこでの講習の中身ですが、期間は7月5日(火)から9月3日(土)までの約2ヶ月間、日曜祝日を除き朝9時から午後5時まで講義があり、科目数は選択科目を含めて13科目19単位で1科目終了ごとに試験（又はor及び）レポート提出があります。そしてそれに合格すれば単位が認定され、受講したものを全部取れば目出たく司書に合格と

いうことになる訳です。

しかしそうむずかしいことではなくほとんどの人が合格しています。

次に成果ですが①図書館の役割を再認識したこと。つまり、図書館とは簡単に要約すれば情報を目的に照らし収集、整理し適確に利用者に供する機能を果たす所であり、それを支えているのが司書であるということです。②各担当部署での専門的知識（深くはあるが細切れ）の組織的体系化がある程度出来たことの2点に集約されると思います。

何はともあれ、無事終えることが出来たのは、一重に講師の先生、事務の方、旅館のご主人、同僚の人々、そして我西南図書館員の方々の御蔭であり深く感謝申し上げます。

この経験を基に、今後の図書館の機械化その他に生かして行くべく努力して行きたいと思います。

（情報サービス課・電算係）

「第2回電算機事務処理利用研修会」に参加して

大 羽 康 二

第2回電算機事務処理利用研修会は、東京都市センターホテルで、7月15・16日の2日間に渡って、全国私学電算事務関係者294名の参加で、講演、グループ討議、全体討議と、ディスカッション中心に行なわれました。グループ討議では、図書館業務パートに参加しましたが、参加者37名(30校)と、前回と比較して参加者が多く、討議の方も各館とも熱心で、意義深いものでした。

講演では、法政大学増島宏常務理事から「経営者から見た事務の電算化に期待するもの」と題して講演があり、グループ討議では、大学図書館の特殊性と現在かかえている問題点を洗い出し、機械化の可能性・有効性を考え、各大学の機械化の現状と問題点の具体例をふまえ、討議が行なわれ

ました。

全体討議では、各パート別の討議についての報告がなされ、他のパートの者との理解を深め合いました。

全体の中で図書館業務に関して、各大学とも、多少機械化が、他の部署に比べ、遅れているものの、機械化の可能性・有効性を考え、貸出、返却受入、目録など、電算化を行なっている大学も少なくなく、本学に於いても、電算化への関心は深まる一方であるから、館員一人一人が、しっかりと知識を持ち、トータルシステムを旨とし、大学図書館の電算化に努めるべきであると感じました。

（整理課・和漢書整理係）

資料紹介

■ *The Gentleman's Magazine* 讃

現在吾々が殆んど無造作に使用する“magazine”のもっとも卑近な意味は、実に *The Gentleman's Magazine* (1731年創刊) に由来することを先ず指摘したい。O.E.D. で magazine, 5.b. の項を参照すれば、この事は自ずと明白で、18世紀に始まるこの定期刊行物は、発足当初、新聞のもつ時事ニュースの報道性と文芸誌の機能をあわせて充たすことを意図し、それぞれの時代の風俗、娯楽記事を提供するにとどまらず、学芸、歴史、文壇消息、外国ニュース、裁判記事、劇場案内、新刊書紹介、株式相場と殆んど当時の社会文化の全般にわたって報道し、記録する。18世紀、19世紀の社会背景を考察する上で、当に欠くことの出来ぬ基礎資料であり、他に類を見ない貴重な情報の宝庫と云えよう。英文学史で名高い Dr. Johnson もこの“雑誌”の初期の寄稿家の一人で、特に 1740年～1743年、その頃評判の“議会記事”で大いに活躍する。恐らく当時のロンドン市民は、coffee house でこの雑誌の情報と消息に知的好奇心をあふられ、賑やかに

文学部教授 八 木 幹

論じあった事であろう。今日と違って、当時のジャーナリズムは、新聞と雑誌の境界が必ずしも判然とせず、その限り、この“総合文化誌”の果す役割は目覚しいものがあった。前述の Johnson に加えて、伝記作者 Boswell、詩人 Cowper、Shakespeare 学者 Malone、政治評論家 Burke 等 18世紀～19世紀の英国のすぐれた知性と感性の持ち主が、この土俵でそれぞれ人物評伝、文芸批評、アメリカ革命、フランス革命…の諸分野にわたって報道と省察に貴重な歴史の証言を残す。先頃、筆者も機会を得て、1873年の *G.M.* で 19世紀の Shakespeare 論に接した。Charles Cowden Clarke の “Shakespeare's Philosophers and Jesters” *G.M.* Vol. 234, 514-539, Shakespeare 劇に登場する女性像を論ずる当時の文人の雅趣と筆致に、昨今の Shakespeare 批評の緻密な、しかし時として息の詰まる専門家の方法を想い、如何にも大らかで、のびのびした “amateurism” の実例に触れて、我にもなく歎息し、ひそかに羨望を覚えた。

(英文学)

■ 民国二十年代中国大陸土地問題資料

文学部教授 平 野 正

この土地問題資料は、1930年代、中国共産党の農村における勢力伸張に対抗して、南京国民党政府側が農村の土地問題を解決するための実態調査と、その調査を通じて南京政府側の農林工作者を養成しようとした意図のもとに生れて来たものである。南京政府は、その目的のために 1932年中央政治学校内に地政学院を設置し(1940年閉鎖)、大学卒業生のうちから希望者を同学院に入院させて、各地の土地問題を研究させた。本資料はその調査報告と論文とから成る。調査報告は調査者の実習調査日記と実習報告であり 176冊であり、また論文は 168冊であり、その範囲は各省・県・市の田賦研究(36篇)、土地整理(22篇)、農村経済関係(30篇)、租佃制度・家賃問題(19篇)、土地制度(19篇)、地価地税(20篇)、農業金融(8篇)などの多方面にわたっている。また調査報告の範囲は 19省、180余県・市にわたっている。

かくも広範な調査報告がなされ、いままで保存されていたことは、この事業が中国共産党対策の最重要課題として、南京政府の中央政治学校(校長蒋介石)という権力の中核部分によってすすめ

られた事業であったからであろう。この調査者たちは地政学院入学後、一年間の基本学科の研究後、各重要地区に三ヶ月間にわたって派遣され、その調査結果とそれにもとづいた研究論文を提出したものである。そしてかれらは、卒業後は各省の工作に派遣されたのである。その数は前後 9年の学院の存続期間中、168人に達したという。

この調査報告と研究論文が台湾の地県研究所に保管されており、このたび台北の成文出版社よりプリントとして出版されたものである。したがって同資料は、手書きのままであり、生の資料としての特徴をもっている。これまで生の調査資料は満鉄のもの、毛沢東が30年代前半に行なった江西農村のもの、中共の瑞金ソヴェト占領後、中共の諸資料を収集した陳誠文庫などあったが、南京政府の立場からの農村土地問題についての生の調査資料は、これがはじめて公開されたものであろう。それが中国農村の実態をどれほど正確に反映したものであるかは、今後の研究によって明らかにされねばならぬであろう。

(中国近代史)

☆ ニュース・お知らせ ☆

〈図書館委員会〉

58.7.8 (報告事項)

①図書館二課制採用とその事務組織について

②図書館機械化検討委員会について

その他

58.10.14 (報告事項)

①図書館業務の機械化について

その他

〈研修・出張〉

○文部省委嘱 司書講習

58.7.5～9.3 於：別府大学

杉野司書出席

○昭和58年度私立大学図書館協会 総大会

58.7.14～16 於：金沢工業大学

今永情報サービス課長出席

○第2回電算機事務処理利用研修会(私情協)

58.7.15～16 於：東京都

大羽司書出席

○第4回大学図書館研究集会

58.9.11～13 於：埼玉(国立婦人教育会館)

荒川係長出席

○昭和58年度図書館研修(私大連盟)

58.10.11～14 於：愛知県

西納、渡辺司書出席

○昭和58年度私立大学図書館協会 西地区部会

九州地区協議会研究会

58.10.14 於：北九州市(ひびき荘)

品川司書、板谷、香川、川上司書補出席

○昭和58年度全国図書館大会

58.10.26～28 於：山口市(山口市民会館)

杉本課長補佐出席

〈図書館二課制の採用と事務組織の一部変更〉

図書館業務は、ここ数年来著しく増大し、それを処理する職員も30名にも達し、また業務の質と量によって機能分化し、業務の円滑な推進をはかる趣旨のもと、昭和58年7月1日より、整理課と情報サービス課の二課制が採られることになった。

〈人 事〉 (58年7月1日付)

世戸口尚英(図書館より広報・調査課へ)

坂口久人(秘書課より)

図書館整理課・和漢書整理係へ)

刀根 淳(事務次長、司書長より、図書館事務次長へ、整理課長を兼ねる)

今永義純(課長補佐より、情報サービス課長へ昇任)

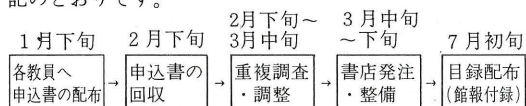
荒川 勇(係長へ昇任、整理課・受入係)

武末悉昌(夜間嘱託) 退職(58.9.30付)

〈昭和58年度指定図書集計結果〉

例年どおり58年度の指定図書の依頼を、各教員にお願いして寄せて貰いましたが、その回収結果をお知らせします。

指定図書整備の年間スケジュールと、集計結果は、下記のとおりです。



学部・学科	教員数	回答者数	回収率	和 書	洋 書	合 計
英 文	23名	5名	21.7%	46冊	11冊	57冊
仏 語	7	2	28.6	22	10	32
商 学	21	10	47.6	191	0	191
経 済	15	6	40.0	162	0	162
法 学	16	7	43.8	201	0	201
教 養	35	22	62.9	400	8	408
児 教	10	0	0	0	0	0
合 計	127名	52名	平均41.0%	1,022冊	29冊	1,051冊

告 知 板

○大学祭期間中の開館

大学祭期間中も平常通り9時から21時まで開館しますが、この間1階学習室は閉室します。

○冬期休暇中の開館時間および休館日

12月27日(火) 9:00～12:00

28日(水) } 年末年始休館
1月5日(木) }

6日(金) } 9:00～21:00
7日(土) }

※この間1階学習室は閉室

1月9日より平常通り開館

○冬期休暇長期貸出(下記対象以外は除く)

学部学生、専攻科生

12月15日(木)～1月7日(土) 5冊以内

留学生別科生

12月15日(木)～1月7日(土) 10冊以内

大学院生

10月26日(木)～11月19日(土) 20冊以内

いずれも返却期限は1月18日(木)です。

○卒業年次生へ

卒論用に別途3冊(1ヶ月)貸出中

先輩の卒論、閲覧実施中(詳細は受付まで)